

先端基礎研究センター 20年のあゆみ

歴代センター長

センター長	在任期間	前職／専門分野
伊達 宗行	平成5年4月～平成11年3月	大阪大学 理学部長 / 物性物理
安岡 弘志	平成11年4月～平成17年9月	東京大学 物性研究所長 / 物性物理(実験)
籾野 嘉彦	平成17年10月～平成22年3月	東京工業大学 理学部長 / 放射線化学
前川 禎通	平成22年4月～	東北大学金属材料研究所 教授 / 物性理論

研究テーマ変遷

※括弧内は客員グループリーダーの当時の所属機関

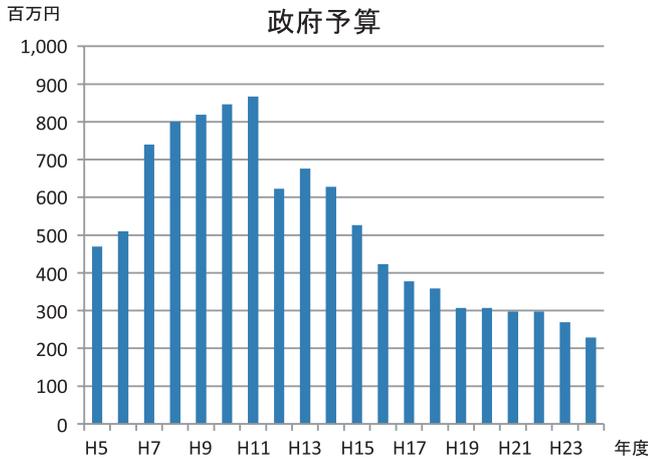
研究グループ名	研究テーマ名	研究期間 年度(平成)	グループリーダー※
極低温放射線物性研究グループ	極低温における放射線物性の研究	5～9年度	岩田忠夫 (6年度から岩瀬彰宏)
生体物質中性子回折研究グループ	中性子回折法による生体物質の原子・分子レベルでの構造解析と生理機能の解明に関する研究	5～9年度	新村信雄(東北大)
量子計測研究グループ	量子計測法の研究	5～9年度	中沢正浩(東京大)
イオンビーム植物遺伝子研究グループ	イオンビームによる植物の遺伝子損傷と修復に関する研究	5～9年度	田野茂光(東京大)
放射光表面化学研究グループ	放射光による表面化学の研究	5～8年度	佐々木貞吉
重イオン未知重核研究グループ	重イオンによる未知重核の探索の研究	5～9年度	池添 博
アクチノイド溶液化学研究グループ	アクチノイドイオンの溶液及び液/液界面及び液固相中における化学・分離反応に関する研究	5～9年度	吉田善行
アクチノイドメスバウア分光研究グループ	アクチノイドのメスバウア分光学的研究	5～9年度	佐伯正克
ハドロン輸送研究グループ	微視的シミュレーションによるハドロン輸送の研究	5～9年度	岩本 昭
荷電粒子多体系研究グループ	荷電粒子多体系の物性と制御の研究	5～8年度	田島俊樹 (米国テキサス大)
熱対流分岐研究グループ	熱対流パターンの選択機構に関する研究	5～9年度	藤村 薫
分子化学研究グループ	超原子価結合及び化学反応動力学的研究	5～7年度	工藤博司
ウラン化合物超伝導研究グループ	ウラン化合物における超伝導の研究	6～10年度	大貫惇睦(大阪大)
原子トンネル反応研究グループ	原子トンネル効果による極低温化学反応の研究	7～11年度	宮崎哲郎(名古屋大)
強相関電子系中性子散乱研究グループ	中性子散乱による強相関電子系の研究	8～12年度	山田安定(早稲田大)
超低温中性子散乱研究グループ	超低温の導入による中性子散乱の研究	8～12年度	森井幸生
レーザー駆動分子注入研究グループ	レーザー駆動分子注入の研究	8～12年度	福村裕史(大阪大)
植物形態形成研究グループ	植物の形態形成分子機構の研究	9～13年度	内宮博文(東京大)
量子凝縮相研究グループ	量子凝縮相の基礎研究	9～12年度	立木 昌(東北大)

研究グループ名	研究テーマ名	研究期間 年度(平成)	グループリーダー※
中性子構造生物学研究グループ	機能性生体物質の水和構造研究	10～14年度	新村信雄
パルス中性子イメージング研究グループ	パルス中性子イメージング検出法の研究	10～14年度	片桐政樹
逆コンプトンガンマ線核分光研究グループ	逆コンプトンガンマ線の生成と核分光の研究	10～14年度	藤原 守(大阪大)
イオンビームダイヤモンド合成研究グループ	ビーム蒸着によるダイヤモンド合成の研究	10～12年度	橋本 洋
変形核重元素合成研究グループ	変形核の融合による重元素合成の研究	10～14年度	池添 博
超アクチノイド元素核化学研究グループ	超アクチノイド元素の核化学的研究	10～14年度	永目論一郎
機能性場アクチノイド化学研究グループ	機能性反応場におけるアクチノイド化学の研究	10～14年度	吉田善行
バイオアクチノイド研究グループ	微生物によるアクチノイドの分離研究	10～12年度	坂口孝司(東和大)
極限ハドロン科学研究グループ	極限条件におけるハドロン科学の研究	10～14年度	千葉 敏
ウラン電子系研究グループ	ウラン化合物における重い電子系の研究	11～15年度	大貫惇睦(大阪大)
ウランNMR研究グループ	核磁気共鳴(NMR)法によるウラン化合物の磁性と超伝導の研究	12～16年度	R.E.Walstedt (米国ラトガース大)
超流動反応場研究グループ	超流動反応場の原子・分子研究	12～16年度	荒殿保幸
超重力場物質制御研究グループ	超重力場を用いた物質制御研究	12～17年度 上期	真下 茂(熊本大)
ナノセンシング磁気顕微鏡研究グループ	磁気顕微鏡による極微磁気構造の研究	12～16年度	門脇和男(筑波大)
スピン-格子相関中性子散乱研究グループ	先端偏極中性子散乱によるスピン-格子物性の研究	12～17年度 上期	加倉井和久
極限環境中性子散乱法研究グループ	多重極限環境下における中性子散乱実験法の研究	13～15年度	森井幸生
ビーム誘起新物質状態研究グループ	ビーム照射による機能性物質状態のデザインに関する研究	13～17年度 上期	橋本 洋
多体電子系理論研究グループ	軌道縮退の大きな系における多体電子理論の研究	13～17年度 上期	上田和夫(東京大) (15年度から堀田貴嗣)
重元素マイクロバイオロジー研究グループ	重元素と微生物との相互作用の解明研究	14～17年度 上期	A.J.Francis(米国ブルックヘブン国立研究所)
陽電子ビーム表面研究グループ	反射高速陽電子回折による最表面物性の研究	15～17年度 上期	一宮彪彦(名古屋大)
中性子光学研究グループ	中性子光学素子の開発と中性子分光法の研究	15～17年度 上期	清水裕彦(理研)
ソフトマター中性子散乱研究グループ	中性子散乱によるソフトマターの構造と機能に関する研究	15～17年度 上期	橋本竹治(京都大・名誉教授)
超ウラン化合物研究グループ	超ウラン化合物の物理と化学の研究	15～17年度 上期	塩川佳伸(東北大)
重元素単一化学研究グループ	単一原子分子重元素化学の研究	15～17年度 上期	永目論一郎
多体ハドロン系理論研究グループ	多体ハドロン理論によるマクロ現象の研究	15～17年度 上期	千葉 敏
ウラン物質開発研究グループ	新規なウラン化合物の創成と電子状態の研究	16～17年度 上期	大貫惇睦(大阪大)

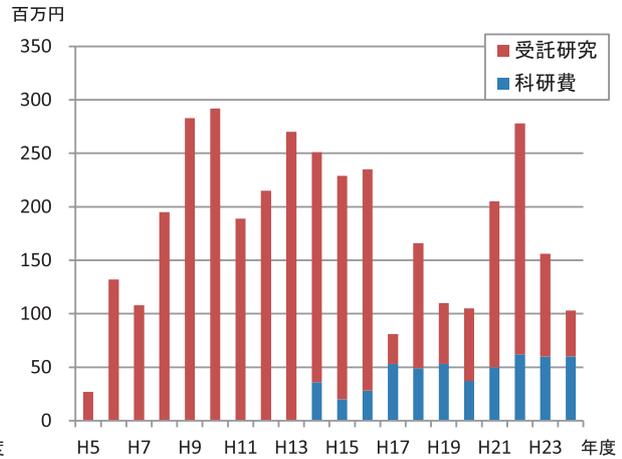
研究グループ名	研究テーマ名	研究期間 年度(平成)	グループリーダー※
ウラン中性子散乱研究グループ	中性子散乱によるウラン化合物の物性研究	16～17年度 上期	日時直人
放射線DNA損傷機構研究グループ	放射線によるクラスターDNA損傷の研究	16～17年度 上期	横谷明德
アクチノイド μ SR研究グループ	アクチノイド化合物凝縮相のNMR、 μ SRの研究	17年度上期	R.H.Heffner (米国ロスアラモス国立研究所)
天体核重元素研究グループ	宇宙における重元素生成過程の実験的 解明	17年度上期	宮武宇也(高エネ研)
極限重原子核研究グループ	極限重原子核の殻構造と反応特性の解 明	17下期～21年度	宮武宇也(高エネ研)
超重元素核化学研究グループ	核化学的手法による超重元素の価電子 状態の解明	17下期～21年度	永目論一郎
新規アクチノイド化合物研究グループ	新規なアクチノイド化合物の創成とエキゾ チック磁性・超伝導の探索	17下期～18年度	芳賀芳範
f電子多体系研究グループ	f電子多体系のスピンの軌道複合ダイナミッ クスの解明	17下期～18年度	R.H.Heffner (米国ロスアラモス国立研究所)
極限環境場物質探索グループ	超極限環境下における固体の原子制御と 新奇物質の探索	17下期～21年度	前田佳均(京都大)
陽電子ビーム物性研究グループ	高輝度陽電子ビームによる最表面超構造 の動的過程の解明	17下期～21年度	河裾厚男
強相関超分子研究グループ	強相関超分子系の構築と階層間情報伝 達機構の解明	17下期～21年度	橋本竹治(京都大・名誉教 授)(20年度より小泉智)
重元素生物地球化学研究グループ	刺激因子との相互作用解析による生命応 答ダイナミクスの解明	17下期～21年度	大貫敏彦
アクチノイド化合物磁性・超伝導研究 グループ	アクチノイド化合物の磁性・超伝導の解 明	19～21年度	芳賀芳範
放射線作用基礎過程研究グループ	放射線の物理化学生物作用における基 礎過程の解明	19～21年度	勝村庸介(東京大)
量子物性理論研究グループ	数値シミュレーションによる新機能材料の 創出	22年度～	森 道康
分子スピントロニクス研究グループ	分子・ナノ炭素系におけるスピン伝導機構 の解明	22年度～	境 誠司
力学的物質・スピン制御研究グループ	超重力スピンメカトロニクスの開拓	22年度～	齊藤英治(東北大)
重原子核反応フロンティア研究グループ	核子移行反応による重原子核反応特性 の解明	22年度～	千葉 敏 (24年度より東工大)
超重元素研究グループ	超重元素の価電子状態と超重核の殻構 造の解明	22年度～	M.Schädel (ドイツ重イオン研究所)
アクチノイド物質開発研究グループ	アクチノイド化合物の物質開発	22年度～	Z.Fisk(米国カリフォル ニア大アーバイン校)
重元素系固体物理研究グループ	複数5f電子系に起因する新奇量子物性 の解明	22年度～	神戸振作
ハドロン物理研究グループ	ストレンジネスを含む原子核とハドロンの 構造解明	22年度～	今井憲一 (京都大・名誉教授)
バイオアクチノイド化学研究グループ	バイオ反応場におけるアクチノイドのナノ 粒子化機構の解明	22年度～	大貫敏彦
放射場生体分子科学研究グループ	放射場における生体分子の変異と生体 応答の解明	22年度～	横谷明德
スピン偏極陽電子ビーム研究グループ	スピン偏極陽電子ビーム技術の開発と最 表面磁性に解明	22年度～	河裾厚男

研究リソース、成果等

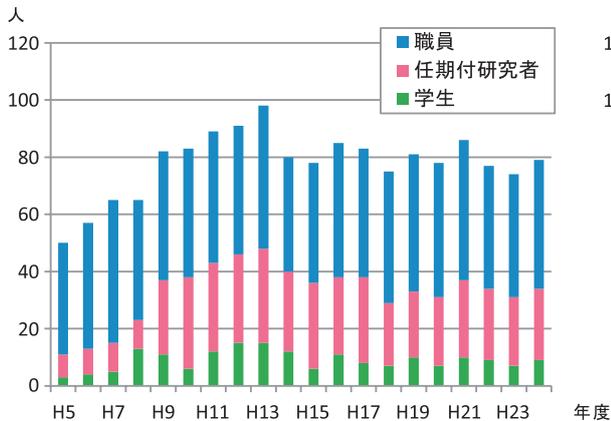
●研究費の推移



●外部資金の推移

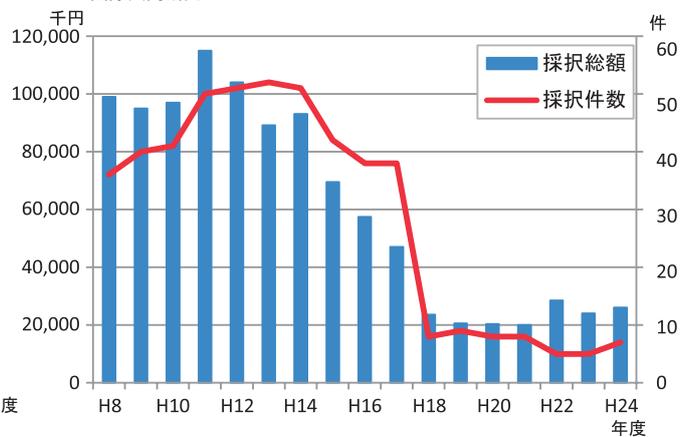


●人員数の変遷



●黎明研究費と採択件数の推移

※採択件数のうち、H22年(3件)、H23年(5件)、H24年(6件(予定))は国際共同研究



●論文数及び特許・実用新案件数

年度	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
論文	51	72	83	102	135	176	158	251	329	354	258	218	176	241	169	121	143	190	179
特許・実用新案	2	5	4	4	6	9	9	5	4	8	6	4	1	2	0	3	1	-	-

*特許・実用新案は公開中(未登録)のものを含む。

*論文は査読付のものに限る。

●独法評価結果

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22
評価	A	A	S	A	A	S

主な受賞(H5~H24.5月)

年度	賞の種類	受賞件名	受賞者
7	日本化学会第13回学術賞	超原子価結合の分子化学的研究	工藤 博司
7	1995年度つくば奨励賞 (実用化研究部門)	中性子イメージングプレートの開発と応用	新村 信雄
9	日本表面科学会論文賞	ストロンチウム化合物におけるオージェ共鳴ラマン散乱	佐々木貞吉 他3名
9	第56回注目発明	中性子画像形成法	新村 信雄 他1名
9	第56回注目発明	超臨界流体を媒体として用いる金属元素の抽出分離法	磯 修一 他3名
9	日本化学会第15回学術賞	原子トンネル反応の素過程の解明とその展開	宮崎 哲郎
10	1998年(第8回) 日経BP技術大賞	生体機能を解明できる中性子回折技術及びそれを可能にしたイメージングプレートの開発技術	新村 信雄 他5名
10	応用物理学会放射線分科会 放射線賞	中性子イメージングプレートの放射線測定への応用	新村 信雄
11	日本材料学会論文賞	中性子回折による残留応力測定装置の開発と炭素網曲げ塑性変形材の残留応力分布の測定	皆川 宣明 他3名
11	科学技術庁長官賞	中性子イメージングプレートの開発と生体物質の構造解析の研究	新村 信雄
11	日本原子力学会賞奨励賞	熱中性子核分裂における核分裂と中性子の同時測定	西尾 勝久
12	第1回日本放射化学会奨励賞	新アクチノイド核種の発見と中性子不足アクチノイド核種の壊変特性に関する研究	塚田 和明
13	日本放射線化学会奨励賞	量子固体パラ水素マトリクスを用いた固相放射線化学反応の研究における新展開	熊田 高之
13	第22回本田記念研究奨励賞	希土類・ウラン化合物の純良単結晶育成による磁性と超電導の研究	芳賀 芳範
13	第2回日本放射化学会奨励賞	中高エネルギー光核反応の放射線化学的研究	羽場 宏光
14	日本物理学会論文賞	重い電子系における磁気不安定点周囲の異常特性	滝本 哲也 他1名
16	第8回久保亮五記念賞	軌道秩序の理論	堀田 貴嗣
16	2004年日本放射化学会賞	ラザホージウム等の核化学研究における新展開	永目 諭一郎
16	日本表面科学会技術賞	Top Most Surface Studies by Total Reflection Positron Diffraction	河裾 厚男 他4名
18	森田記念賞	f電子系化合物の開発的な物性研究	芳賀 芳範
19	第14回日本物理学会論文賞	Unconventional Heavy-Fermion Superconductivity of a New Transuranium Compound NpPd ₅ Al ₂	芳賀芳範、松田達磨、立岩尚之、池田修悟、酒井宏典、山本悦嗣、中村彰夫、大貫惇睦 他4名
19	応用物理学会 講演奨励賞	強磁性体シリサイド(Fe ₃ Si)/半導体(Ge)ヘテロ界面の原子層制御	鳴海一雅、前田佳均 ほか5名
20	2008年日本放射化学会賞・奨励賞 (日本放射化学会)	シングルアトム分析手法を用いたラザホージウム、ノーベリウム溶液化学的研究	豊島 厚史
20	科学研究費補助金審査委員の表彰 (独立行政法人日本学術振興会)	科学研究費補助金第一段審査委員の表彰	大貫 敏彦
21	若手表彰独立行政法人科学技術振興機構)	陽電子マイクロビームによる原子力材料のマイクロ劣化解析	河裾 厚男
21	電子スピンサイエンス学会奨励賞 (電子スピンサイエンス学会)	パラ水素マトリクスを用いた高分解能ESR分光法による極低温固相内分子運動と化学反応の研究	熊田 高之
21	2009年 日本物理学会若手奨励賞	NMRによる多極子秩序の微視的観測	徳永 陽
22	日本放射線化学会奨励賞	軟X線照射によるDNA損傷の光子エネルギーによる選択的な依存性	藤井 健太郎
22	日本放射線化学会奨励賞	治療用重粒子イオンビームの放射線化学反応の展開	山下 真一
23	日本中間子科学会平成22年度(第1回)若手奨励賞(日本中間子科学会)	f電子系PrPb ₃ におけるミュオンスピン緩和機構の解明と四重極秩序の研究	伊藤 孝
23	第5回物理における少数多体系に関するアジア太平洋会議2011 若手発表賞	J-PARCにおけるパイオン反応による Θ^+ の探索	白鳥 昂太郎
23	2011年 日本物理学会若手奨励賞	反射高速陽電子回折法の発展への寄与	深谷 有喜

プレス発表(H5~H24.5月)

発表日	タイトル	発表グループ
平成6年10月18日	高性能中性子写真フィルムの開発に成功ー繰り返し使用可能、感度100倍、情報量1000倍ー	生体物質中性子回折研究グループ
平成7年3月1日	二酸化炭素でウランを分離ー有機溶媒を使わないウラン抽出に新たな可能性ー	アクチノイド溶液化学研究グループ
平成8年3月25日	世界最短パルスの超高出力レーザーを開発	荷電粒子多体系研究グループ
平成8年4月15日	紫外線耐性植物の創生をイオンビーム照射で成功	イオンビーム植物遺伝子研究グループ
平成8年4月22日	トリウム of 新しい同位元素(アイソトープ)を発見	重イオン未知重核研究グループ
平成8年9月3日	UPt ₃ (ウラン白金3)で新型の超伝導を発見	ウラン化合物超伝導研究グループ
平成9年5月16日	日本原子力研究所の黎明研究でユニークな成果ー微生物を用いてプルトニウムを回収ー	先端基礎研究センター
平成9年11月26日	中性子回折によるリゾチーム全構造の決定(ネイチャー構造生物学誌の表紙を飾る)	生体物質中性子回折研究グループ
平成9年12月2日	ウラン化合物のNMR(核磁気共鳴)測定に成功ー超伝導機構解明に向け大きな一歩ー	アクチノイドメスバウアー分光研究グループ
平成10年6月24日	固体の酸素に超伝導現象ー極低温・超高压下で発見ー	量子凝縮相研究グループ
平成10年7月31日	磁気を取り持つウラン超伝導の発見ー超伝導の理論に見直しをせまるー	ウラン化合物超伝導研究グループ 量子凝縮相研究グループ
平成11年7月16日	大型放射光施設SPring-8を利用して世界最高エネルギーの逆コンプトンガンマ線核の発生に成功	逆コンプトンガンマ線核分光研究グループ
平成12年1月18日	世界最高性能の中性子回折装置を開発	中性子構造生物学研究グループ
平成12年3月9日	新しいアメリカシウム、キュリウム同位体を発見ー超重核の原子質量決定ー	超アクチノイド元素核化学研究グループ
平成12年12月1日	研究活動の国際化目指した体制作りが進む 日本原子力研究所先端基礎研究センター	先端基礎研究センター
平成13年1月12日	核子の内部構造を探るΦ中間子ーSPring-8の世界最高エネルギーのガンマ線を使って検出に成功ー	逆コンプトンガンマ線核分光研究グループ
平成13年1月26日	アクチノイド内包フラレンの合成・分離精製に成功ーウラン等の新規化合物への新しい展開ー	超アクチノイド元素核化学研究グループ
平成13年6月14日	超臨界二酸化炭素を用いてウラン廃棄物からウランを回収する方法を開発	機能性場アクチノイド化学研究グループ
平成14年8月22日	多くの放射性核種を一括して除染するカプセルー原研の公募型研究「黎明研究制度」による成果ー	先端基礎研究センター
平成15年1月24日	世界最高性能の超重重力場発生装置を開発ー新しい物質制御研究に道を拓くー	超重重力場物質制御研究グループ
平成15年7月1日	クオーク5個から出来ている新しい粒子(新バリオン)発見ーSPring-8の世界最高エネルギーのレーザー電子光を使って検出	逆コンプトンガンマ線核分光研究グループ
平成15年10月7日	浮世絵の青色着色料プルシャンブルーの使用は天保元年に始まったー原研の公募型研究「黎明研究制度」による成果ー	先端基礎研究センター
平成16年10月1日	超ウラン化合物のフェルミ面を世界で初めて決定ーNpCoGa ₅ 単結晶でドハース・ファンアルフェン効果を観測ー	ウラン物質開発研究グループ
平成17年1月13日	ラザホージウムの新たな性質を確認	重元素単一原子化学研究グループ
平成17年6月16日	プルトニウム化合物の単結晶育成と新規超伝導発生メカニズムの解明に成功	ウラン物質開発研究グループ
平成18年8月7日	高輝度陽電子ビームを用いて表面ナノ物質の原子立体配列の観測に成功ー陽電子で物質最表面だけの顕微技術が可能にー	陽電子ビーム物性研究グループ
平成18年9月22日	フラレン-コバルト化合物を含むナノグラニューラ薄膜に巨大な磁気抵抗効果を発見ーフラレンのスピントロニクス分野への応用を拓くー	極限環境場物質探索グループ
平成18年12月19日	ネプツニウム酸化物NpO ₂ に新しい磁気秩序を発見ーこれまでの常識を覆す「磁気八極子秩序」の存在を確認ー	f電子多体系研究グループ
平成19年5月25日	超ウラン・ネプツニウム化合物で初めて超伝導を発見	アクチノイド化合物磁性・超伝導研究グループ
平成19年12月6日	世界最高レベルの収束度を持つ小型陽電子顕微鏡を開発ー原子力材料のミクロな劣化診断が可能にー	陽電子ビーム物性研究グループ
平成20年3月18日	中性子で微粒子の配向過程を解明ー中性子回折で実現したセラミックス微粒子配向過程の直接観察ー	アクチノイド化合物磁性・超伝導研究グループ

発表日	タイトル	発表グループ
平成21年1月22日	フラーレン・コバルト薄膜の巨大な磁気抵抗効果の起源を解明 －有機分子のスピンが流れる電子のスピンを偏らせる－	極限環境場物質探索グループ
平成21年1月23日	絶対零度で起こる未知の相転移(量子相転移)を解明 －超伝導が起こる仕組みの解明を進展－	アクチノイド化合物磁性・超伝導研究グループ
平成21年2月18日	微生物による白金族元素ナノ粒子触媒の作製に成功 －微生物の不思議な力に迫る－	重元素生物地球化学研究グループ
平成21年8月27日	超重力場を用いた同位体分離法の実現のカギとなるロータを世界で初めて開発	極限環境場物質探索グループ
平成21年11月5日	放射光軟X線を用いて選択的DNA損傷の誘発に成功 －新たなDNA操作技術への応用につながると期待－	放射線作用基礎過程研究グループ
平成22年1月28日	超高時間分解能による高温水、超臨界水の放射線分解の観測に成功 －原子炉冷却水の管理技術向上に寄与－	放射線作用基礎過程研究グループ
平成22年5月12日	太陽系に存在する最も希少な同位体タンタル180が超新星爆発のニュートリノで生成されたことを解明	重原子核反応フロンティア研究グループ
平成22年6月4日	超伝導体への磁気注入に世界で初めて成功 －超伝導を用いた量子コンピュータへ道を拓く－	先端基礎研究センター
平成22年9月24日	絶縁体からの熱電発電に成功 －グリーン・省エネデバイス開発に道－	先端基礎研究センター
平成23年1月25日	ウラン化合物における四半世紀の謎「隠れた秩序」を解明	アクチノイド物質開発研究グループ
平成23年2月15日	回転運動から磁気の流れを生み出す手法を発見 －ナノスケールのモーター・発電機の開発に道－	先端基礎研究センター 量子物性理論研究グループ
平成23年6月9日	非磁性体(銀)に巨大な磁気を持たせることに成功 －超高感度磁気センサーや大容量不揮発性メモリーの開発に道筋－	先端基礎研究センター
平成23年6月23日	あらゆる物質で利用可能な新たなスピン流注入手法を発見 －次世代の省エネルギーデバイス開発に向けて大きな進展－	量子物性理論研究グループ 先端基礎研究センター 力学的物質・スピン制御研究グループ
平成23年8月5日	新しい磁性半導体の開発に成功 －スピントロニクス応用へ道を拓く－	先端基礎研究センター 重元素系固体物理研究グループ
平成23年8月19日	音波から磁気の流れを創り出すことに成功 －省エネルギー・新機能電子デバイス開発技術に道－	先端基礎研究センター
平成23年9月15日	超伝導に関与する電子の異常な磁気の揺らぎを観測 －磁気揺らぎに基づく超伝導メカニズムの解明に大きな一歩－	重元素系固体物理研究グループ
平成24年3月1日	超伝導に関与する異常な電気抵抗を発見 －未知の量子相が引き起こす超伝導の解明へ－	アクチノイド物質開発研究グループ
平成24年3月30日	グラフェンの精密層数制御と高均質化に成功 －次世代スピントロニクス・エレクトロニクスデバイス開発に向けて大きな進展－	分子スピントロニクス研究グループ
平成24年4月11日	ウラン化合物で自発的に回転対称性を破った超伝導を検出 －四半世紀以上の謎であった超伝導発現機構解明に重要な手がかり－	アクチノイド物質開発研究グループ
平成24年4月13日	超伝導体を用いて磁石のマイクロな運動を高精度に測定する原理を発見 －強磁性体中の磁壁の運動に関する高感度かつ高精度な測定に道筋－	先端基礎研究センター 量子物性理論研究グループ
平成24年4月17日	磁石のマイクロな運動が生む電気の高出力化機構を解明 －磁壁運動によるスピン起電力の安定化と素子の微細化に道筋－	量子物性理論研究グループ 先端基礎研究センター
平成24年5月1日	乱れに強い量子液体状態を示す銅酸化物磁性体の発見	重元素系固体物理研究グループ
平成24年5月17日	世界で初めて ²³⁹ Pu核磁気共鳴信号の観測に成功 －新たなプルトニウム科学の幕開け－	力学的物質・スピン制御研究グループ
平成24年5月18日	スピン起電力をリアルタイムで検出 －ナノスケールのスピン電池－	先端基礎研究センター

主要行事(H5～H24.5月)

タイトル	開催日時
第1回先端基礎研究シンポジウム	平成7年3月23日～24日
第2回先端基礎研究シンポジウム	平成9年3月17日～18日
第3回先端基礎研究シンポジウム	平成11年3月17日～18日
先端基礎研究交流棟完成記念特別講演会	平成11年6月29日
第1回開放的融合研究「水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓」に関する国際シンポジウム	平成12年3月27日～29日
第2回開放的融合研究「水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓」に関する国際シンポジウム	平成12年10月27日～29日
第1回先端基礎研究国際シンポジウム「中性子散乱研究の進歩」	平成12年10月31日～11月2日
第2回先端基礎研究国際シンポジウム「重元素科学における最近の進歩」	平成13年11月13日～15日
第3回開放的融合研究「水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓」に関する国際シンポジウム	平成13年12月10日～12日
第3回先端基礎研究国際シンポジウム「f-電子系における物理の進歩」	平成14年11月12日～14日
第4回開放的融合研究「水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓」に関する国際シンポジウム	平成14年11月20日～22日
先端基礎研究センター設立10周年記念シンポジウム	平成15年11月17日
第4回先端基礎研究国際シンポジウム「重元素マイクロバイオロジー研究の進歩」	平成16年11月15～16日
第5回先端基礎研究国際シンポジウム「世界物理年を記念して—アクチノイド化合物の物理と化学の進歩—」	平成17年9月27日～29日
第6回先端基礎研究国際シンポジウム「核・放射化学のフロンティア」	平成18年10月26日～27日
第7回先端基礎研究国際シンポジウム「荷電粒子およびフォトンの物質との相互作用」	平成19年11月6日～9日
第8回先端基礎研究国際シンポジウム「第6回重イオン核物理に関する日本—イタリア間シンポジウム」	平成20年11月11日～15日
第9回先端基礎研究国際シンポジウム「陽電子、ミュオン、及び、その他のエキゾチック粒子ビームを用いた材料物性と原子／分子科学研究」	平成21年11月10日～12日
第1回ASRC国際ワークショップ「極限条件下実験によるアクチノイド化合物のエキゾチック物性研究への新しいアプローチ」	平成23年2月16日～18日
International school for Strangeness Nuclear Physics 2012 (SNP2012)	平成24年2月12日～18日
第2回ASRC国際ワークショップ「磁性材料及びナノ構造」	平成24年1月10日～13日
第3回ASRC国際ワークショップ「極限条件下実験によるアクチノイド化合物のエキゾチック物性研究への新しいアプローチ」	平成24年1月31日～2月3日
第4回ASRC国際ワークショップ「微生物、粘土、植物による放射性核種の化学状態変化:環境中移行及び環境修復」	平成24年3月12日～13日
第5回ASRC国際ワークショップ「核分裂の展望」	平成24年3月14日～16日
先端基礎研究センター設立20周年記念シンポジウム	平成24年4月24日

編集後記

先端基礎研究センターの20周年記念シンポジウムを基礎科学ノートに編集しました。シンポジウムには110名の参加者があり、先端基礎研究センターの国際化にふさわしく、全てのスピーチは英語で行われました。邦文の基礎科学ノートに編集するため、講演者から頂いた原稿を編集者の責任で和訳して掲載した部分があります。また、参考資料として、20年間のあゆみが概観できるよう研究資源の推移や研究成果などを掲載しました。先端基礎研究にふさわしい投資に対するアウトプットが得られていると見るかどうか、読者の皆様は如何ぞ判断されるでしょうか。(H.I.)

基礎科学ノート編集委員会

前川 禎通 (委員長)、池添 博 (幹事)、浅井 雅人、宇都野 穰、笠間 瑠菜、久保 勝規、酒井 宏典、沢井 友次、鈴木 玲美、藤井 健太郎